自分らしさ

　「それがあなたの自分らしさだよ。」中学二年生の時、友達が私に言ってくれた言葉。私はとても嬉しかったです。

　私は女でありながら、一人称に「俺」を使っています。自分に一番合っていると感じた時から使うようになりました。

　小学三年生頃、可愛らしいものを身につけるのに、違和感を感じ始めました。それまでは母がその日その日の服を決めてくれたのですが、母が決めるのは、やはり女の子が好きそうな可愛らしい服。どうしても着たくないとわがままを言って、その日からは自分で着る服を決めるようになりました。好きな服を着られて、なりたい自分になれることに、大きな喜びを感じていました。しかし、そんな私を見る母は少し悲しそうな、嫌そうな顔をするようになりました。それから私は徐々になりたい私になり続け、小学校高学年になる頃には、一人称も「うち」から「俺」になりました。家族には心底嫌そうな反応をされました。親戚にも同じような反応をされ、「えぇ、どうして？」「女の子らしくいなさいよ。」と言われました。なぜ受け入れてくれないんだと、人に相談もできず、一人で泣くこともありました。ですが友達は違いました。拒絶することもなく、以前と変わらず接してくれました。

　小学校を卒業し、中学校に上がった時、私は気持ち悪がられないかと、とても不安でした。いろいろな学校の子が集まる場、いろいろな考え方の子がいます。難なく受け入れてくれる子もいるんだろうけど、拒絶する子もいるんだろうと、不安で不安で仕方がなかったです。中学校が始まってすぐ、私は驚きました。女でありながら「俺」を使う私に対し、避ける子や、嫌な顔をする子はいませんでした。驚く子は少なからずいたけれど、私を避けるような子は一人もいませんでした。

　中学二年生に上がって、新しいクラスになった時、自分の弱み、どんな自分になりたいか、を本音で話そうという時間がありました。私はそこで「どんな自分になりたいかは特になく、強いて言うなら自分らしさを大切にできる自分になりたい。」と話しました。その時に、一人称が「俺」であることを話しました。どう思われるだろうと不安になり、声がとても震えていたのを覚えています。授業が終わった時、クラスの子達が私のところに来て、励ましと慰めの言葉をかけてくれました。

「それがあなたらしさだよ！」「周りに合わせる必要はないもんな！」と、私を温かい言葉で包んでくれました。本当にうれしかったです。

　世の中には、人々の「自分らしさ」を受け入れられない人が少し多いのではないかと、私は感じます。ＳＮＳの投稿でも、人の好きなものや趣味を否定するような声を多々見かけたり耳にします。感じ方や人の好みは様々だと思います。ですが、人の「自分らしさ」を否定している声を見かけたり、耳にすると「素敵なのになぁ。」と、とても胸が痛みます。それとは逆に、自分との違いを受け入れ、応援していたり、素敵だと褒めている声を見かけると、とても心が温かくなります。私がそうでした。ＳＮＳへの投稿はしていませんが、身の回りの人に受け入れてもらえると、とても嬉しくなるし、心の支えにもなります。これは、人の好みや趣味だけではないと私は思います。一つの例として、恋愛をする上での性別があります。今の時代、恋愛に性別がどうこうなんて関係ないと、私は考えるのです。誰が誰を好きになろうと、誰が何を好きになろうと、それはその人の「自分らしさ」だからです。

　互いが互いを認め合い、支え合い、輝かせ合えたら、今よりももっとクリエイティブで、素敵な世の中になると思いませんか？好きなものを好きだと、隠さずに言える世の中になったら、今よりももっと自分らしい人生を歩めると思いませんか？私はこのようなことを実現できるよう、少しずつ、少しずつ行動に移していこうと頑張っています。